

皮膚科領域におけるTE-031の使用経験

松永若利・大石 空・荒尾龍喜

熊本大学医学部皮膚科学教室

新しいマクロライド系抗生物質、TE-031の皮膚科領域における表在性化膿性疾患に対する有効性、安全性、有用性の検討を行なった。表在性毛嚢炎1例、蜂窩織炎1例、集簇性痤瘡1例、癰2例、手術創・潰瘍の二次感染2例、リンパ管炎1例の計8例に使用した。1日投与量300 mg ないしは450 mg を2回あるいは3回に分けて経口投与した。臨床効果は有効3例、やや有効5例であった。副作用はみられなかった。

TE-031は大正製薬株式会社研究所でEMから合成した新規のマクロライド系抗生物質である¹⁾。今回われわれは、TE-031を種々の表在性化膿性疾患に使用する経験を得たのでその成績について報告する。

I. 試験の目的、対象疾患、試験実施期間

1. 試験の目的

表在性化膿性疾患に対するTE-031の有効性、安全性、有用性の検討を行なうことを目的とした。

2. 対象疾患

各化膿性疾患を以下のような疾患群に分け、それぞれについて検討を行なった。すなわち第Ⅰ群は、毛嚢炎、集簇性痤瘡、第Ⅱ群は癰、癰腫症、癰、第Ⅲ群は伝染性膿痂疹、膿痂疹性湿疹、第Ⅳ群は丹毒、蜂窩織炎、表在性リンパ管炎、瘰癧、化膿性爪囲炎、第Ⅴ群は慢性膿皮症、皮下膿瘍、化膿性汗腺炎、感染性粉瘤、肛門周囲膿瘍、第Ⅵ群は感染性褥瘡、外傷・熱傷・手術創などの表在性二次感染の各疾患である。

3. 試験実施期間

昭和61年7月から昭和61年11月までの期間に、熊本大学医学部附属病院皮膚科外来を受診した患者について行なった。

II. 試験の方法

TE-031は1錠中に主成分100 mg(力価)あるいは150 mg(力価)を含有する錠剤であるが、これを1日300 mg ないしは450 mg(力価)経口投与した。すなわち100 mg の錠剤であれば1日3回、150 mg の錠剤であれば1日2回ないしは3回服用させ、投与期間は原則として7日間以上内服させた。

効果判定は自他覚所見、症状の程度、重症度などを参考にしつつ、最終的全般改善度、すなわち著効、有効、やや有効、無効の判定を行なった。

III. 治療成績

Table 1に全症例の内訳と治療成績を示した。臨床効果は有効3例、やや有効5例であった。副作用はみられなかった。次に各症例について簡単に述べる。

症例1: 男, 16歳, 集簇性痤瘡

3, 4年前より、背部を中心に主として膿疱形成をみる集簇性痤瘡が出現している。非常に病状は難治性であり、これまでも種々の治療法が試みられている。当科では、切開排膿を加えながら、TE-031 300mg, 1日3回の経口投与を10日間続けた。症状は完治するには至らなかったが、増悪することなく、やや軽快傾向を示した。分離菌は *S. epidermidis* であった。

症例2: 女, 35歳, 毛嚢炎

初診1週間程前より、口囲を中心に有痛性の紅色丘疹、膿疱が出現するようになって当科を受診した。TE-031を1日300mgの経口投与で開始した所、症状は軽快した。

症例3: 男, 50歳, 癰

初診4, 5日前より鼻尖部が発赤し、有痛性となった。TE-031の1日300mg投与を開始した。1週間で軽快した。

症例4: 男, 38歳, 癰

初診4, 5日前より右臀部に有痛性硬結が出現して当科を受診した。初診時穿刺排膿を併用するとともにTE-031の1日450mg投与を開始した。約1週間で軽快した。分離菌は *Staphylococcus* sp. であった。

症例5: 女, 60歳, 蜂窩織炎

SLEにて外来で経過観察中の患者であるが、10日程前より左下腿に蜂窩織炎が認められるようになった。TE-031使用前に切開排膿を行ない経過をみていたが、排膿は多量であった。

TE-031の1日300mg投与を12日間続けた。排膿は減少し、軽快した。

症例6: 男, 58歳, リンパ管炎

熱傷瘢痕より小潰瘍が起り、難治性であるが、時々、

Table 1 Clinical results of TE-031

Case No.	Age	Sex	Diagnosis	Isolated organism	Dose	Duration (days)	Clinical effect	Side-effects
1	16	M	Acne conglobata	<i>S. epidermidis</i>	100mg×3	10	Fair	—
2	35	F	Folliculitis	N.D.	100mg×3	6	Fair	—
3	50	M	Furuncle	N.D.	100mg×3	6	Fair	—
4	38	M	Furuncle	<i>Staphylococcus</i> sp.	150mg×3	7	Good	—
5	60	F	Phlegmon	No growth	150mg×2	12	Good	—
6	58	M	Superficial lymphangitis	N.D.	150mg×2	7	Good	—
7	19	M	Secondary infection	N.D.	150mg×2	7	Fair	—
8	79	M	Secondary infection	N.D.	100mg×3	7	Fair	—

N.D.: Not done

経過観察のために当科外来を通院している患者であり、糖尿病もある。外来受診の3、4日前より、右下肢が軽度に腫脹し、線条発赤並びに右ソケイリンパ節の腫脹もみられるようになった。リンパ管炎と診断して、TE-031の1日300mg投与にて治療を試みた所、1週間では完治した。

症例7: 男, 19歳, 外傷後二次感染

初診3週間前に交通事故で前額部に潰瘍を生ずる。近医にて保存療法を受けていて、植皮術のために当科を初診した。初診時、創は汚なく浸出液も多量であったため、Debridementを施行するとともにTE-031の1日300mg投与を1週間行なった所、浸出液も減少し、肉芽面もきれいになったので、植皮術を施行し、植皮片もきれいに生着した。

症例8: 男, 79歳, 術後二次感染

下腿動脈血栓症にて皮膚壊死を来たした患者であるが、植皮術を施行後に1部植皮片の壊死が生じた。浸出液も

多いため、TE-031の1日300mg投与を行なった所、1週間で浸出液は減少した。

Ⅳ. 考 按

TE-031を皮膚感染症8例に使用した。その内訳は、表在性毛嚢炎1例、蜂窩織炎1例、集簇性痤瘡1例、リンパ管炎1例、癰2例、手術創・潰瘍の二次感染2例であったが、全症例に対してやや有効以上の治療成績が得られた。自、他覚症状において副作用はなく、臨床検査成績においても異常所見はなかった。

以上より、未だ症例数は少ないが、TE-031は皮膚細菌感染症に対しては比較的有效な安心して使える薬剤であろうと考える。

文 献

- 1) 第35回日本化学療法学会総会, 新薬シンポジウム。TE-031, 盛岡, 1987

TE-031(A-56268)IN THE FIELD OF DERMATOLOGY

WAKATOSHI MATSUNAGA, MUNASI OISHI and TATSUYOSHI ARAO

Department of Dermatology, School of Medicine, Kumamoto University, Kumamoto

We carried out a clinical study on TE-031(A-56268), a new macrolide antibiotic, in the treatment of superficial purulent dermatological diseases to determine the drug's efficacy, safety and utility. TE-031 was administered to a total of 8 patients with superficial folliculitis(1 case), phlegmon(1), acne conglobata(1), furuncle(2), secondary infection of operative wound and ulcer(2)and lymphangitis(1). TE-031 was orally administered at 300 or 450 mg/day, b.i.d. or t.i.d.. Clinical efficacy was good in 3 cases and fair in 5. No side-effects were observed.